

雪国での非日常体験 クラスを越えて深まる絆

感謝の気持ちを忘れずに
かけがえのない出会いに感謝
3日間の感謝を込めて



班長から直接記念品を贈呈

修学旅行直前の1月24日
(土)に体育館で修学旅行の出発式が行われた。本部長は副教頭の串田昌也先生は、錦城生は先生の声一つで動けるから、さらに上を目指し、教員の一言の前に動けるようになつてほしいと話した。串田先生は元錦城生として自身が体験した修学旅行

国分はる美先生。挨拶をしてください」と話した学年主任の「いよいよこの日がきました」と振り返りながら「今こことは違う自然を楽しんできてほしいです」と言葉を送った。3日間のスキー実習を終え、62回生はホテルごとにスキー実習の修了式を行つた。

行なわれた閉会式では、インストラクター代表の方が「皆さ

んはとても恵まれています。家に帰つたら

おうちの人たちが藏王で修学旅行を楽しめているのは、家の方々

がさせてあげてください。一番お土産は安全に帰つて、修

学旅行の思い出をたくさん話すことです」とスキー実習を終えた生徒にメッセージを送

りました。



「また藏王に来てください♪」

中級者班のインストラクターの石塚勝也先生は、「安全に楽しく滑ってもらう」ことを一番に指導しているという。インストラクターを始めた13年前から錦城生を教えているそう。「これからも飽きずに藏王に来てください」と錦城生に言葉を贈ってくれた。

閉校式ではお世話になったインストラクターさんへの班旗への寄せ書きと記念Tシャツのプレゼントが行われた。多くの生徒が部屋でトラン

クターさんから実習終了の

ステッカーをもらい、帰ると

きも姿が見えなくなるまで生

徒は必ず手を振り続け、閉

会式は終了した。

編集委員は温泉街でできた

ての玉こんにやくを購入し

ていて美味しいかった。



仲間と過ごした思い出の1枚

初心者班は、3日間での成長が最も顕著に表れた班ではないだろうか。初日の午前はリフトに乗ることもなく、低地での基礎練習から始まつた

スキー実習。1、2回のスキ

1月26日(月)から1月30日(金)、四泊五日の62回生の修学旅行が行われた。今号では、藏王でのスキー実習の様子を中心にお伝えする。

初心者もどんどん上達

修学旅行2日目から3日間は初心者と経験者に分かれて行われた。

初心者班は、3日間での成長が最も顕著に表れた班ではないだろうか。初日の午前はリフトに乗ることもなく、低地での基礎練習から始まつた

スキー実習。1、2回のスキ

経験がある者と、初のスキー体験である者が混在した初心者班からは、自分だけが思う

(62回生共同取材)

ように滑れない、実力差があると悩む声も聞こえた。うまく止まらず、「止まんない!止まんない!」と叫びながら暴走する錦城生も見られた。しかし、2、3日目と練習を重ねて止まらず、「止まんない!止ま

るようになつた。最終日には、初日とは比べ物にならないほど、高さまでリフトで登り、寒風に吹かれたり、景色を楽しむことも

できるようになつた。

2日目から板を平行にして

滑るパラレルターンの練習が

始まり、インストラクターの

アドバイスを聞きながらトレ

インでゲレンデを疾走した。

広いゲレンデだけではなく、

林間コースにも行つた。班員

からは前傾姿勢を保つて長時

間滑るため、すねがブーツに

押しつけられて痛いという声

が。互いに励ましあつて午前

中の滑走を終える。午後に樹

木を見に行くも、丁度その夕

イニングで天候が荒れ、視界

が真っ白になつて見ることが

できなかつた。ただ見ること

が真なかつた。ただ見ること

